

平成30年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑥課題:インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を持つ俵型大納言小豆品種の育成(29～元年度)

代表者:京都府農林水産技術センター生物資源 研究センター 主任研究員 山崎むつみ

目的

高級和菓子の原料である京都府産の大納言小豆において、インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を有する品種を開発し、収量の安定化と担い手不足への対応を図る。

成果

①生産力検定と機械収穫適性が高い系統の選抜

・有望6系統の粗子実重、精子実重は「京都大納言」と比べて有意な差は認められなかったが、百粒重と2L率は「京都大納言」より有意に大きかった。

②DNAマーカー等を活用したインゲンマメモザイクウイルス抵抗性調査

・接種約3週間後に病徴観察およびELISA検定により抵抗性の有無を判定した結果、「京都大納言」は罹病性を示したが、有望6系統は全て抵抗性を示した。

③味認識装置を活用した加工適性評価

・味認識装置を用いて調査したところ、京都大納言と育成系統間には「旨味」「旨味コク」の差がなく、育成系統は「京都大納言」と同等と思われた。

味認識装置で測定した育成系統および対照品種の水煮小豆の旨味・旨味コクの相対値(中央部が京都大納言)

